

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23590805

研究課題名(和文)子育て期女性の職業と家事の負担による健康影響の評価

研究課題名(英文)Health-effects of work and family roles in middle-aged women

研究代表者

永谷 照男(Nagaya, Teruo)

名古屋市立大学・医学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号：40144018

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文)：横断研究：対象者は5,737名を収集し、baseline の問診と健診資料の収集を2013.5に終了。この baseline data のクリーニング作業(重複、欠損値、非論理値の確認、資料統合など)を2013.12に終え、'baseline data-base'を確定(n=5006)。横断研究のデータ処理を実施中。

追跡研究：上記対象者のうち満3年を経過した2088名に郵送追跡問診調査を実施し、976名から回答を得た(2014.4月末現在)。また、収集から1年以上経過した者の追跡健診成績を2013.12月分まで収集。これらの資料・データは順次データファイル化している。

研究成果の概要(英文)：Cross-sectional study: 5,737 women were collected during the period from Oct. 2008 to March 2013. Baseline data on a questionnaire and a checkup of the subjects were achieved, and cleaning of the baseline data finished in Dec. 2013. Consequently, eligible subjects for the cross-sectional study were 5,006 women aged 25-49 years, and 'baseline data-base' was established. Cross-sectional analysis using the data-base is processing.

Follow-up study: 3-year follow-up questionnaire was mailed to 2,088 women by April 2014, and 976 women of them responded and returned it to me. At the same time, follow-up data on the checkup after 1-year or longer from the baseline are continuously collected in the subjects.

These data collected are accumulated in electronic files step by step.

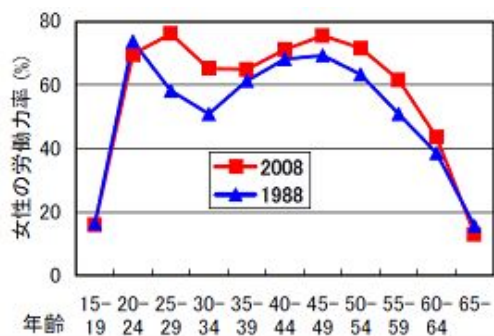
研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生学・健康科学

キーワード：子育て期女性 職業 家事 健康影響

1. 研究開始当初の背景

(1) 職業・Work: 下図(働く女性の実情、厚生労働省 2009 年より)のように、日本人女性の労働力率は 30~34 歳を底とする「M 字型」である。この特徴は妊娠・出産・子育て期の就業継続が困難であることを示す。近年、「M 字型」の底は経年的に浅くなり、妊娠・出産・子育て期女性の就業者は増加している。ところが、女性就業者の 53.6% は非正規雇用であり(男性は 19.2%、働く女性の実情、厚生労働省 2009)、職務や賃金に加え、就業継続のための休暇制度、福利厚生なども男性に比し不利である。



(2) 家事・Family: 日本では伝統的・文化的に子育てや介護を含む家事は、職業の有無にかかわらず女性がその多くを担っている。一方、勤労世代の男性は有配偶者でも家事時間は週 3 時間である(女性は週 18~20 時間、生活時間の国際比較、連合総研 2009)。このため、共働き世帯、特に子育て期の核家族(核家族は一般世帯の 57.9%、国勢調査 2005)では家事が女性の大きな負担となる。

2. 研究の目的

上記を背景に、多くの女性、特に子育て期女性では職業と家事(Work-Family balance)が社会生活や個人生活で心理的、身体的にも二重の負担となる。そこで、働く女性、特に 25~45 歳の子育て期女性で「職業」と「家事」の負担が生活習慣や健康に与える影響の有無・程度を横断的、縦断的に把握する。日本人女性を対象とした、このような調査研究は見当たらない。したがって、この研究の成果は子育て期女性の疾病予防、心身の健康増進や日常生活の QOL 向上に有用であり、さらに子育て支援や少子化対策、男女共同参画社会の推進などの基礎資料として有意義である。

3. 研究の方法

(1) 全体計画は、横断研究(cross-sectional study)とその結果を基礎(baseline)とする 7 年間の追跡研究(prospective follow-up study)である。今回の研究費と研究期間内に、横断研究のための

対象者(目標 5,000 名)とその資料・データの収集を完了することが第一目標である。

(2) 対象者収集の進行に従い、資料・データの整理、確認、訂正、入力を行う。その後、横断研究として解析し、子育て期女性で職業や家事の負担と生活習慣や主観的・客観的健康との横断的関連性を示す。

(3) 追跡研究では、baseline から 3 年後、7 年後の郵送による追跡問診調査と、7 年間に亘る経年的な追跡健診成績の収集を実施する。

調査に関連する場所、対象者、面接や同意、調査内容・項目や健康指標などの収集資料、追跡調査方法などの概略を下に示す。

対象者: 単一医療機関の健診(一般健診、生活習慣病健診、人間ドックなど)を受診した 25~45 歳女性のうち同意が得られ、かつ、現病や重篤な既往症のない者。2008.10 月以降の既収集者(2,400 名)を含め 2012.12 月までに 5,000 名の収集を目指した。

下記の同意 a)~d) や問診項目 1)~4) の収集は問診票を用いた面接で行った。面接は看護師、検査技師など守秘義務のある者を非常勤雇用して実施した。研究対象者の同意は、a) 研究用問診票に回答し、その結果を研究に利用すること、b) 当日の健診成績を研究に利用すること、c) 今後 7 年間に同一医療機関で健診を受診した場合の健診成績を研究に利用すること、d) 3 年後と 7 年後に自宅への郵送による追跡問診調査に参加すること、の 4 点をそれぞれ確認した。

問診項目: 下記の 1)~4) を収集した。詳細は後記の教室 HP に示した問診票を参照のこと。

1) 職業要因 職業の有無、職種、正規/非正規雇用、一週勤務日数、一日勤務時間、坐業割合、深夜勤務の有無、通勤時間、収入や職務の満足度 など

2) 家事要因 世帯構成、配偶者の有無、養育中の子の有無・年齢、要介護者の有無、家事の分担割合、地域・学校活動への参加頻度 など

3) 生活習慣 飲酒、喫煙、運動、歩行時間、睡眠時間、食習慣(朝食、米類、野菜、肉類、魚介類、牛乳、間食などの摂取頻度) など

4) 主観的健康 主観的な健康感・幸福感、日常の疲労感、睡眠の良し悪し、GHQ12 項目によるこころの健康 など

客観的健康: 対象者の同意のもと、健診成績を医療機関から収集した(下記の追跡健診成績も同様)。体格(身長、体重、腹囲、体脂肪率)、血圧・心拍、血糖値、HbA1c、血清脂質(総コレステロール、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール、中性脂肪)、尿酸、肝機能、心電図(不整脈の有無・種類、QT、QTc 時間)、尿所見、眼底所見、腹部超音波所見、自覚症状 など。

追跡研究では、横断研究の各対象者収集時

から 3, 7 年後に郵送法で上記の問診項目 1) ~ 4) を再収集している (7 年後調査は準備段階)。また、各対象者収集時から 7 年間にわたり、対象者が同一の医療機関を受診した場合の客観的健康を追跡健診成績として経年的に収集することを目指している。したがって、最初は 3 年間の追跡研究として結果を示す予定である (3 年間追跡資料の収集終了予定は 2016.3 月)。最終目標である 7 年間の追跡研究としての資料収集は 2020.3 月に終了予定である。

この研究は名古屋市立大学大学院医学研究科倫理審査委員会の承認を得ている。また、調査対象者の収集場所である医療機関の了承、およびそこに所属する医師、看護師、保健師、事務職などの多くの方々の協力を得て、実施・継続してきた。今後の研究継続にも協力を得ている。

4. 研究成果

横断研究の対象者は 2008.10 月 ~ 2013.3 月に計 5,737 名を収集し、baseline の問診資料収集を終了した。また、2013.5 月までに baseline の健診資料収集も終了した。今回の研究費以前の既収集対象者を加え、目標数を達成した。これらの baseline data のクリーニング作業 (重複者確認、欠損値や曖昧/非論理値の確認・処理、問診資料と健診資料の統合など) を 2013.12 月に終え、目標数を達成した 'baseline data-base' を確定した (下記参照)。現在、横断研究のデータ処理を継続的に実施している。

追跡研究では、上記対象者のうち収集から満 3 年を迎えた対象者 2,088 名に郵送追跡問診調査を実施し、976 名から回答を得た (2014.4 月末現在、郵便不着 195 名)。また、収集から 1 年以上経過した者の追跡健診成績を 2013.12 月分まで収集した。

これらの資料・データは順次データファイル化しつつある。

baseline data-base: 収集した上記の対象者 5,737 名から、収集後の同意撤回者 9 名、主要データの欠損者 58 名、年齢が 25 歳未満または 50 歳以上 313 名、重複者 166 名、妊娠中 105 名、休職者 72 名 (うち 5 名は妊娠中と同一者)、学生 13 名、これらの 731 名を除いた 5,006 名 (25 ~ 49 歳、年齢上限は予定より 5 歳高くなった) の女性を横断研究の対象と確定した。その対象者集団の主な属性を以下に示す (このデータ範囲内に欠損値なし)。年齢: 平均(SD)=38.3(5.5) 歳。就労、無職 / 非正規 / 正規: 875 / 1573 / 2558 名。配偶者、有 / 無: 2791 / 2215 名。子育て、有 / 無: 2106 / 2900 名。表 1 に配偶者、子育て、就労別の人数 (n) と平均年齢を示した。健診受診者のため、無職で無配偶の者が極端に少なかった。一週就労時間

(h/week)、非正規 / 正規: 平均(SD)=30.4(12.4) / 43.3(7.7)。家事分担率 (%)、無職 / 非正規 / 正規: 平均(SD)=92.4(14.2) / 74.3(32.4) / 57.8(37.7)。生活習慣では、飲酒、一週アルコール量 (g/week) が 0 / ≤25 / 25 <: 2488 / 1163 / 1355 名。喫煙、非 / 既 / 現喫煙: 3909 / 611 / 486 名。運動、一週運動時間 (min/week) が 0 / ≤100 / 100 <: 3208 / 1014 / 784 名。一日睡眠時間 (h/day): 平均(SD)=6.2(1.0) などであった。

表 1: 配偶者、子育て、就労の有無別
対象者数 (n) と平均年齢, total n=5006

配偶者	子育て	就労	就労		
			無職	非正規	正規
有	有	n	720	726	489
		平均年齢	39.7	41.8	39.8
無	有	n	138	302	416
		平均年齢	38.6	38.4	37.3
無	有	n	1	66	104
		平均年齢	37	41.6	41.0
無	無	n	16	479	1549
		平均年齢	40.6	36.0	36.2

今後、上記の対象者集団で横断研究結果を示して行く。なお、2014 年の日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会では有配偶者の就労・子育てと BMI や血圧との関連性を示す予定である。

本研究のこれまでの経緯に加え、横断研究の面接時に用いた説明書、問診票 (同意書を含む)、追跡研究の郵送追跡問診調査に用いている依頼書、質問票 (同意書を含む)、さらにこれまでの途中資料・データを用いた学会発表の抄録やポスターなどを教室 HP (<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>) に公表している。今後の経過や結果も同様に順次公表する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

この研究は現在も進行中のため、発表論文はありません。横断研究の論文作成中。

〔学会発表〕(計 7 件)

永谷照男. 子育て期女性の就労と body mass index、第 72 回日本公衆衛生学会 (2013.10.24, 津)

永谷照男、近藤康明、日比野稔. 女性の就労と生活習慣、第 86 回日本産業衛生学会 (2013.5.16, 松山)

永谷照男、近藤康明、内藤靖夫. 女性の就労と自覚的な健康・疲労感: 結果更新、第 83 回日本衛生学会 (2013.3.26, 金沢)

永谷照男. 女性の就労と喫煙習慣: 途中基礎資料、第 71 回日本公衆衛生学会 (2012.10.24, 山口)

永谷照男、近藤康明、白田康代、山田由香里。女性の就労と飲酒習慣：途中基礎資料、第 82 回日本衛生学会（2012.3.25, 京都）

永谷照男、女性の就労と運動習慣：途中基礎資料、第 70 回日本公衆衛生学会（2011.10.20, 秋田）

永谷照男、近藤康明、女性の就労と自覚的な睡眠・疲労：結果更新、第 81 回日本衛生学会（2011.3.27, 東京）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

<http://igaku.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>

「4．研究成果」内の HP に関する記述を参照のこと。

6．研究組織

(1) 研究代表者

永谷 照男 (NAGAYA Teruo)

名古屋市立大学・大学院医学研究科・准教授

研究者番号：40144018

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし